

## 米国の私立女子大学における校友会の役割

### The Role of Alumni Associations of Private Women's Universities in the US

原 裕美 (神戸大学 大学院国際協力研究科 博士課程後期課程)

#### 要旨

本稿の目的は、米国の私立女子大学における校友会の役割を分析し、校友会が女子大学に対してどのように貢献しているのかを明らかにすることである。分析対象は、女子大学連合 (Women's College Coalition) の加盟校のうち、米国の私立女子大学 (35 校) の校友会である。対象校友会の規則、運営体制、活動内容を中心に内容分析を行う。

本稿において明らかになったことは以下のとおりである。

- ・校友会の基本的な使命は「大学の発展を支えること」「卒業生と大学をつなぐこと」「卒業生同士をつなぐこと」「卒業生の継続的な成長を支えること」である。
- ・校友会は、学生グループ、卒業後 10 年以内の卒業生グループ、校友会役員、委員会など多様なメンバーで構成されている。
- ・卒業生は、学生の多様な生き方のロールモデル、メンターの役割を担っており、校友会によって学生と関わる様々な機会が提供されている。

米国の私立女子大学校友会の役割は、母校への満足度を在学中だけでなく卒業後も高めることにより、卒業生を生涯にわたって支えるという付加価値を女子大学につけていることである。

#### 1. 問題背景と目的

本稿の目的は、米国の私立女子大学における校友会 (Alumni Association) の役割を分析し、校友会が女子大学に対してどのように貢献しているのかを明らかにすることである。

近年、日本の労働力人口総数に占める女性の割合や有配偶者の女性労働力率の上昇幅が大きくなっており (厚生労働省, 2015: 2-3)、働く女性が増えている。しかし、日本のジェンダー不平等指数の世界順位は、152 ヶ国中 25 位であり、「政治・経済活動や意思決定に参加する機会においては、諸外国と比べて男女間の格差が大きい」(内閣府男女共同参画局, 2015)。日本のジェンダー不平等指数が高い理由は、「特に企業における管理職の女性割合と国会議員・官僚の女性割合が著しく低い」(三宅, 2013: 23) ことが要因の 1 つとされている。2009 年の国際連合の女子差別撤廃委員会の日本に対する勧告内容の中には、労働市場における女性の不利な立場の是正や意思決定過程への女性の促進などが指摘されているが (内閣府男女共同参画局, 2009)、未だ課題は山積したままである。現在では、このようなジェンダー格差を解消すべく、男女共同参画に関する様々な政策が取られている。第 3

次男女共同参画基本計画では、2020年までに指導的立場の女性をあらゆる領域で30%にするという目標を掲げている。

こうして男女共同参画に関する取組みは少しずつ前進しているものの、高等教育におけるジェンダー格差（教職員の各職階における男女割合の格差、学問分野別の教員・学生の男女割合の不均衡（三宅, 2013: 16）の是正は、各高等教育機関に委ねられており、改善には膨大な時間を要する可能性がある。なぜなら、「戦後から現代までの高等教育政策と大学改革の中で、（中略）『女性研究者支援モデル育成』を除いて、女性を対象とした高等教育政策やジェンダー平等に特化した政策や改革は存在しない」（三宅, 2013: 19）からである。各高等教育機関でジェンダー格差の解消に向け、男女共同参画室の設置が進められているものの、国立大学の意思決定機関等における女性比率は、学長補佐等 9.3%、経営協議会（学内委員）・教育研究評議会委員 5.7%、部局長等 4.5%、監事 4.0%であり、いずれも10%以下を示し、「依然として国立大学の意思決定機関等における女性比率は低い（国立大学協会, 2015: 17）」。一方、大学は、日本私立大学連盟（2012）によれば、男女共同参画の取組みに関する中長期的な施策策定に大学間で大きな異なりがあり、そもそも男女共同参画が施策として定められていない大学も散見されたことが報告されている。高等教育におけるジェンダー平等に関する対策は、男女共同参画に向けた体制の整備段階に留まり、大学教育実践への取組みには至っていない。このような状況から、「主体的に社会参画できる女性を育成すると言う点で、特に女子大学が担う役割は大きく重要である」（三宅, 2013: 23-24）。しかし、2003年に84校あった私立女子大学は、2014年には73校に減少し、その存在意義が危ぶまれている。これは、大学（学部）への女子の進学率の増加傾向（内閣府男女共同参画局, 2015）や大学数の増加と対照的な動きである。日本の女子大学は、その意義や役割が社会情勢の変化により常に問われてきた。山田（2010）は、『良妻賢母』に代表される既存の伝統的な価値観や女性の役割に対する社会的規範を受容するような女性の育成を看板として掲げてきた女子大学の多くが、専門的技能を持った職業人を育成する学部を設置し、職業人の育成を大学として掲げるようになってきた」（山田, 2010: 46）と女子学生の進路選択と女子大学の変化を指摘する。

大学の経営環境が厳しい現代の日本において、ジェンダー格差を解消し、主体的に社会参画できる人材を育成するためには、女子大学のみならず、全ての高等教育機関がその重要性を理解し、努力するのは言うまでもない。しかし、日本の女子大学はどのようにして主体的に社会参画できる人材の育成という役割を果たし、存在価値を高めることができるだろうか。すでに女子大学の減少、高等教育の大衆化を経験している米国の女子大学の状況をみてみよう。

大学の使命を「女性への教育と女性の地位向上」と謳っている米国とカナダの女子大学によって構成されている女子大学連合、Women's College Coalition（以下「WCC」）という女子大学連合組織が存在する。WCC（2014）は、50年前の米国には230校もの女子大学

が存在したが、今では46校にまで減少していると報告している(WCC, 2014: 1)。これらの女子大学は、1960年代から1970年代にかけての女性解放運動と財政的事情により、多くが共学化した。加藤(2014)によれば、1990年代は共学にさほど移行しなかったが、2000年代に入ると17校が共学化、5校が別大学と統合した。米国の女子大学の課題として、山田(2010)は、学士課程段階では女子大学、大学院レベルでは男女共学という状況が女子大学のアイデンティティの模索という問題を引き起こしている指摘している。近年は、トランスジェンダーの学生の受け入れに関する問題も起きている<sup>1</sup>。女子大学を取り巻く環境は複雑であるものの、女子大学は米国において「著しく多くの女性国会議員、女性管理職、及び女性専門職を輩出」(三宅, 2013: 23)している。WCCの調査(2012)によれば、女子大学の卒業生は、大学での教育経験や大学に対する満足度が高く、高い在籍率と卒業率が学生のニーズとのマッチングに成功していることを示していると報告している(Women's College Coalition, 2012: 35)。三宅(2013)は、米国の女子大学による女性エンパワーメント効果が、米国のジェンダー格差を縮めていると主張する。

米国の女子大学が厳しい状況下に置かれても、このように存在価値を示すことができる要因は何だろうか。筆者は、女子大学の「校友会」の存在が大きいのではないかと考えている。そこで筆者は、「女子卒業生が多様なキャリアを生き抜いていくために、校友会が強力な後ろ盾となり、私立女子大学に付加価値をつけることで米国における女子大学の存在価値を高め、米国の女性のエンパワーメントを促進しているのではないか」という仮説を立てて、米国の私立女子大学における校友会が大学に果たしている役割を考察する。日本の私立女子大学が直面している状況に鑑みれば、合わせ鏡としての米国の考察は、日本の高等教育機関に新たな知見をもたらすことが期待できると筆者は考える。

## 2. 米国の校友会に関する先行研究

米国の校友会の歴史は18世紀に遡る。米国における校友会の初出は、1821年に設立されたウィリアムズ・カレッジの校友会であり、その後続々と各大学の卒業生たちによって組織化されていった。19世紀前半には校友会は、約250まで増加した(Sailor, 1930: 339)。その多くの校友会の創設当初の目的は読書会を中心とした社交が中心だった(Shaw, 1922: 680-681)。さらに、「19世紀後半から20世紀前半にかけては、安定した恒久的な基金確立要請を背景に、自然発生的で互助会的であった卒業生組織を一本化してカレッジや大学側との連携を強化し、全学校友会を組織化する動きが目立ってきた」(江原, 2009: 128)。近年の米国の校友会と大学の関係について、鳥居(2013)は、互いに使命や戦略を共有し、その歩調を合わせていると指摘している。また、その役割も大学の資金獲得だけではなく、

<sup>1</sup> 近年、Simmons College、Mount Holyoke College、Mills College がトランスジェンダーの学生を受け入れる方針に変更するなど状況が変化している。2015年6月にはBarnard College もトランスジェンダーの学生を受け入れることにした。

大学の国際的パートナーシップ戦略への協調など、「変動する社会における高等教育の課題への応答的な支援のあり方」(鳥居,2013: 143)を提供すること、と役割の幅を広げている。

このように、長い歴史と研究の蓄積がある米国の校友会は、日本にとっても注目すべき存在であった。日本において米国の校友会に関する研究は、1980年代頃からはじまり、清水(1987)、喜多村(1990)、飯野(1997)によって、米国における有名私立大学校友会の活動の実態と役割が分析されている。2000年代には、米国の大学校友会の歴史的展開や現状を、山田(2008)、江原(2009、2010)が明らかにした。これらの先行研究は、米国の校友会の実態を知るための貴重な文献である。しかし、米国における大学の種類は多様であり、「女子大学の校友会」に注目した研究は管見の限り見当たらない。

### 3. 研究課題と分析方法

そこで、本稿では米国の私立女子大学における校友会に焦点を当て、校友会が大学に対して果たしている役割を明らかにするため、次の3つをリサーチクエスチョン(以下、「RQ」)として設定する。

RQ1. 一般の大学と比較して私立女子大学の校友会にはどのような特徴があるのか

RQ2. 校友会は大学にどのように関与し、貢献しているのか

RQ3. 卒業生に対して校友会はどのような役割を果たしているのか

これらのリサーチクエスチョンに対し、米国の私立女子大学校友会の特徴と役割を分析するために、対象となる校友会を特定する必要がある。本稿では分析対象として、WCCに加盟している米国の私立女子大学44校のうち、他大学と合併し男女共学とされている3校<sup>2</sup>、校友会の存在が確認できなかった4校<sup>3</sup>、校友会の存在は確認できたが規則や活動が確認できなかった1校<sup>4</sup>、学部生と大学院生の校友会がわかっていた1校<sup>5</sup>を除いた35校の校友会を取り上げる。分析方法としては、まず校友会規則と校友会ウェブサイトより、校友会の使命・機能・運営体制・活動内容に関する項目を抽出する。次に、抽出した各項目をコーディングし、カテゴリー化を行う。これによって、米国の私立女子大学における校友会の特徴を浮かび上がらせる。本稿では、現代の米国の私立女子大学における校友会を、大学経営・学生への関与・卒業生への支援という様々な角度から考察することによって、校友会が大学に対してどのような役割を果たしているのかを整理していくこととする。

以下では、まず校友会の全体像を明らかにするために、使命・機能・運営体制・活動内容を整理する。次に、大学と校友会の関係を、学生・教員・大学経営との連携状況から確

<sup>2</sup> Douglas Residential College、Russell Sage College、The Colorado Women's College of the University of Denver の3校。

<sup>3</sup> Mary Baldwin College、St.Catherine University、The College of New Rochelle、Trinity Washington University の4校。

<sup>4</sup> Bennett College の1校。

<sup>5</sup> Simmons College の1校。



認する。そして、卒業生は校友会に関わることで何を得ることができるのかを、校友会の活動から整理する。以上の整理をふまえて、最後に米国の私立女子大学校友会が大学に対してどのような役割を果たしているのかを考察する。

#### 4. 米国の私立女子大学における校友会

##### 4.1 校友会の使命と機能

はじめに分析の対象とする各校の校友会の使命とその具体的表現を示すとともに、その内容から大まかな分類を試みたものが表 1 である。これによると、校友会は大きく、「大学の発展を支えること」「卒業生と大学をつなぐこと」「卒業生同士をつなぐこと」「卒業生の継続的な成長を支えること」という 4 つの使命を持っていることが確認できる。「大学の発展を支えること」とは、「卒業生の興味や関心を大学に持ってもらうこと」、「母校の伝統を守ること」、とも表現される。

表 1：校友会の使命

使命	具体的表現
大学の発展を支えること	<ul style="list-style-type: none"> <li>•to support the College in its mission of educating women to excel</li> <li>•to support the Mission and Goals of Cottey College</li> <li>•to support the college and sustain traditions</li> <li>•to support the mission of Saint Ben's as the premier Benedictine College for women in the country</li> <li>•to support the mission and promote the welfare of the College of Saint Elizabeth and the continued interest of its graduates in the college</li> <li>•to promote, support and advance the welfare of the University</li> <li>•promote the ideals, purposes, goals and best interests of Alverno</li> <li>•promote the interests of the University</li> <li>•To promote the development and growth of Brenau University</li> <li>•To promote active and effective participation of alumnae in the JCAA and in Judson College activities</li> <li>•To advocate, promote, and support Judson College and its unique mission as a private Christian college for women</li> <li>•to advance the goals of the College</li> <li>•to facilitate and promote activities and events that will encourage the interests of Cottey College, its students, and alumnae</li> <li>•To strengthen the traditions of Brenau University</li> <li>•to further the interests of Barnard College</li> <li>•To stimulate interest in the financial support of Brenau University</li> <li>•to encourage alumnae participation through programs, fundraising, and outreach and is committed to diversity, academic excellence, and the integrity of Meredith College</li> <li>•to foster loyalty among graduates to ensure the perpetual growth of Chatham University's programs, traditions and financial well-being</li> <li>•the continued interest of its graduates in the college</li> <li>•Provide leadership support to the University and its President</li> <li>•Perpetuate the spiritual, intellectual, cultural and financial growth of the University</li> </ul>
卒業生と大学をつなぐこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>•to promote partnership, maintain close relations</li> <li>•To serve as a link between alumni and the University</li> <li>•connecting them to the College and Bryn Mawr community</li> <li>•to foster strong ties with administrators, faculty, students and friends of the college as well as maintain strong ties among the alumni</li> <li>•to foster and strengthen the life-long relationship between the alumnae and the college</li> <li>•to develop and sustain a bond between Cottey College and its Alumnae</li> <li>•To strengthen and insure the ties which bind the present and future alumnae</li> <li>•to strengthening the relationship between alumnae and the College</li> <li>•to connect with each other and the College</li> <li>•To encourage alumnae to maintain a continuing relationship with each other and the College</li> <li>•bonds between the University and members of the Alumni community</li> </ul>
卒業生同士をつなぐこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>•promote a spirit of fellowship among its graduates</li> <li>•Promote unity among alumni to foster mutually beneficial relationships and connections amongst alumni</li> <li>•to connect, energize and promote Bennies</li> <li>•dedicated to connecting, engaging and serving all University of Saint Joseph alumni and nurturing strong lifelong</li> <li>•build and strengthen the Bay Path University alumni community</li> <li>•To encourage a common spirit of camaraderie among all alumni</li> <li>•fostering lasting relationships with students, alumni and friends worldwide</li> </ul>

使命	具体的表現
卒業生の継続的な成長を支えること	<ul style="list-style-type: none"> <li>• extend to Carlow Alumnae the opportunity for the continuing application of their liberal education to the needs of society</li> <li>• Offer alumni the opportunity for continued growth and development</li> <li>• serves as a lifelong resource and encourages alumnae to contribute to the continued excellence of the College</li> <li>• establish and provide opportunities for alumnae to remain active in the life of the college</li> <li>• to promote and share the achievements of alumni, encourage volunteerism, provide educational and enrichment programs and actively support the College's fundraising efforts</li> <li>• provide a milieu for the exchange of intellectual, spiritual, cultural, and social interests</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>• to promote Catholic higher education</li> <li>• To further the well-being of the college and its graduates</li> <li>• promotes the general welfare of Mount Saint Mary College and its graduates</li> <li>• to perpetuate their loyalty and devotion to their alma mater</li> </ul>

(出所) WCC 加盟校の校友会規則及びウェブサイトより筆者作成。複数の使命を掲げている場合はそれぞれの項目に内容を記載している。

これらの使命を達成するために、校友会とはどのような機能を持ち、活動を行っているのだろうか。各校の校友会の機能に注目すると、その主たる活動は①寄付、②理事会への参画、③ボランティア、④奨学金、⑤キャリア支援、⑥イベント、⑦施設貸出、⑧生涯学習であることが明らかになった。これらのことから、校友会の機能は、表 2 に示すように「大学経営への支援」、「学生への支援」、「研究への支援」、「卒業生への支援」にまとめられる。

表 2 : 校友会の機能と活動

機能	活動
①大学経営への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 寄付</li> <li>• 理事会への参加</li> </ul>
②学生への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ボランティア</li> <li>• 奨学金</li> </ul>
③研究への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学部や研究への寄付</li> </ul>
④卒業生への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>• キャリア支援</li> <li>• イベント</li> <li>• 施設貸出</li> <li>• 生涯学習</li> </ul>

(出所) WCC 加盟校の校友会規則及びウェブサイトより筆者作成。

#### 4.2 校友会の運営体制

こうした4つの機能を果たすため、校友会はどのような体制で運営されているのかを、役職者の構成や委員会の設置状況から分析した。校友会における役職者の職名と職務内容は、主に次の5種類が存在する(表3)。①会長(President)、②次期会長(President-Elect)、③副会長(Vice President)、④会計(Treasurer)、⑤書記(Secretary)である。特徴としては、次期会長(President-Elect)が会長とともに校友会の運営に関与している。また、次期会長が存在しない場合は、前会長(Immediate Past President)が役員に名を連ねている。理事会・執行委員会をはじめとした各種委員会を中心として校友会の活動が推進されている。理事会・執行委員会の他には、「学生募集委員会(Student Recruitment Committee)」「寄付委員会

(Fundraising Committee)」「キャリア委員会 (Career and Employment Services Committee)」「コミュニケーション&広報委員会 (Communication & Publication Committee)」など様々な委員会が設けられている。校友会は、このような運営体制により大学の校友課 (Office of Alumni Relations) と日常的に連携している。

表 3 : 校友会の役職者の職名と職務内容

職名	職務内容
会長 President	会長は、校友会、理事会、執行委員会の最高責任者である。
次期会長 President-Elect	次期会長は会長によって割り当てられた職務を行う。次期会長は、校友会の様々なプログラムについて学び、長期計画に関与する。会長が不在の場合、次期会長は、理事会や執行委員会の全ての会合を主宰する。会長の辞任または死亡した場合には、次期会長は、期限が切れていない期間も含めて会長の職務を負う。
副会長 Vice President	副会長は、会長から割り当てられた職務及び特別な任務を行う。
会計 Treasurer	校友課と連携して、校友会の会計を監督する。年間予算を準備し、支出を行い、すべての資金と校友会の有価証券の保管及び維持を行う。会計は、理事会及び執行委員会で財務報告を行う。
書記 Secretary	書記は、理事会や執行委員会の議事録を作成し、校友会に関する全ての記録を保管する。

(出所) 職務内容は、Brenau University Alumni Association の規則“Section 4. Duties.”を参考に筆者作成。

### 4.3 多様な構成員

実際の校友会内部は、次の2つのグループによって、校友会の世代間交流の促進が図られている。1つ目は、「GOLD (Graduate of Last Decade)」と呼ばれる卒業後10年以内の卒業生、もしくは「Young Alumnae」と呼ばれる卒業して間もない卒業生を中心としたグループが執行委員会に参加している。これらのグループは、若い卒業生と大学や校友会とのコミュニケーションを促進する役割を担っている。具体的には、卒業年次ごとの寄付の取りまとめ役、同世代の卒業生によるボランティア、学生のメンターとなる機会の提供やイベント等を行い、若い卒業生と大学・校友会との繋がりを留めておくことをこれらのグループの目的としている。

2つ目は、執行委員会への学生の参加や学生の校友会グループである。学生の校友会グループと校友会との協力が、卒業生の校友会への参加意識の醸成や学生と卒業生を繋ぐ機会となっている。活動としては、卒業生と学生の合同イベント、カクテルパーティーなどがある。また、学生が校友会に参加するメリットとしては、①卒業生との人脈を作る、②リーダーシップスキルを強化する、③ボランティア活動を通じて地域社会へ貢献する、④母校と一生を通じた関係を構築する、⑤母校に恩返しすることの重要性について学び、奨学金の為の寄付を通して後輩を支援する、などが挙げられる(The Chatham University Alumni Association)。

米国の私立女子大学における校友会は、このように多様な年代・属性の構成員によって組織されている。学生や若い卒業生が校友会に参加することによって卒業生の後輩への興味や関心を促進し、校友会の活動が活性化することを校友会は目的としている。学生や若い卒業生にとっては、校友会の活動への参加が、自らのコミュニケーション能力とリーダーシップスキルの開発など学びの機会となり、大学コミュニティの一員としての認識が芽生える。このような互惠関係が、学生と若い卒業生の大学への興味や関心を持続させる要因の1つとなっているといえるだろう。

## 5. 大学と校友会との関係

### 5.1 学生とのつながり

卒業生が大学に対して「なにかを提供したい、関わりたい」と考えたとき、校友会から2つの方法が提案されている。第一は大学への直接的な寄付であり、第二は、自分の時間を大学のために捧げることである。卒業生は、自分の興味・使える時間・経済状況によってどちらでも選ぶことができる。第二の自分の時間を大学のために捧げることとして、校友会は多くのボランティアの機会を卒業生に提供している。表4に、校友会と大学が連携して提供している学生に対して行うボランティアの活動内容と担当部署をまとめた。校友会の学生に対するボランティアには、①学生のキャリアアドバイザー、②学生のメンター、③インターンシップの提供者、④学生イベントのボランティア、がある。担当部署は内容により大学のキャリアセンターや学生課が担当している。特に、学生のキャリアに関して卒業生が関与することが大学側から積極的に求められており、大学側は、メンタリングプログラムやキャリアサミットなど学生と卒業生をつなぐ様々なプログラムも用意している。

表4：校友会が学生に対して行うボランティアの種類・活動内容・担当部署

ボランティアの種類	活動内容	担当部署
キャリアアドバイザー	学生からキャリアや職業に関するインタビューを受けたり、アドバイスをを行う。	キャリアセンター
メンター	教育やキャリアに関するアドバイスを求める学生のメンターになる。	
インターンシップの提供者	卒業生の経営する企業でのインターンシップを提供する。	
学生イベントのボランティア	学生の主催するイベントの手伝いをを行う。	学生課

(出所) WCC 加盟校の校友会ウェブサイトより筆者作成。

その他の学生に対する支援としては、①ホームシックの学生を減らすため、学生に生活必需品、授業に必要な筆記用具、お菓子などの食料を送り、繋がり続ける取組み、②マイノリティ卒業生(例:LGBT、同じ地域の出身者等)によるマイノリティ学生のためのパーティー、③奨学金の支給などが挙げられる。



このように、校友会は、学生の成長に卒業生が直接関わる仕組みを、大学の部署と連携して構築している。特に女子大学の卒業生は、学生にとって多様な生き方のロールモデルやメンターであり、学生の将来のキャリアに対する希望を支え、その実現に向けて励ます重要な存在となっている。また、学生に関与することによって、大学が寄付を必要とする理由を卒業生がより理解することができる (Tara,S.S.,Aaron,W.H., 2002: 66)。

## 5.2 教員とのつながり

教員と卒業生との関係は、卒業生の教員に対する支援と卒業後のつながりという2つで成り立っている。

1つ目は、卒業生が教員を支援する活動として、教員表彰・学部や研究への寄付が挙げられる。例えば、Cedar Crest Collegeの校友会では、卒業生からのオンラインによる推薦で教員表彰が決まる。

2つ目は、教員と卒業生が繋がる場として、①全学的な同窓会 (Reunion) での再会、②校友会主催のツアー (Alumni Travel)、③授業の聴講、などがある。Alumni Travelとは、卒業生同士のツアーというだけでなく、生涯学習の一環として行われており、世界遺産や歴史的建造物の見学などを通して学ぶことを目的としている。その現地について、教員がレクチャーする場合もある。また、卒業生は、教員の承認があれば、授業を無料で聴講することができる。

校友会による教員や研究への支援活動は、学生支援と比べて手薄だと言えるかもしれない。しかし、卒業生の興味や関心を大学に留めておく方策の一つとして、教員と卒業生とのつながりは非常に重要である。卒業生にとって、①恩師とのつながり、②教員から大学の現状を聞くこと、③継続的な教育を受けることは、学生時代を想起させ、新たな学びや学生や大学に対する支援のきっかけとなりえる。これらは、教員の協力なしには成り立たない。

## 5.3 大学経営とのつながり

校友会が大学経営に対して行う支援は、①卒業生の代表として理事会への参加、②寄付と新しい寄付者の紹介、③学生募集ボランティアがある。特に③学生募集ボランティアは、Alumnae Ambassadors Program、Admission Volunteer、Refer studentsと表現され、入学希望者をアドミッションオフィスに紹介すると、その入学希望者は入学申請料が無料もしくは割引になるなどの特典がついてくる。その他にも次のような様々な活動が卒業生に期待されている。その活動としては、①入学希望者を大学主催のカレッジフェアに連れてくる、②カレッジフェアで入学希望者からの質問に応える、③大学に関する資料を説明する、④居住地域における入学希望者の相談を受ける、⑤居住地域の高校を訪問し、入学希望者と話す、⑥居住地域から母校に入学する学生の入学パーティーを開催する、などがある。

卒業生が大学のために、学生募集や新しい寄付者の紹介を行うには、卒業生が大学を好意的に捉えていることが前提となる。学生募集ボランティアにおいても、卒業生に求められているのは、卒業生の大学生生活の思い出や授業について情熱的に語り、入学希望者の夢を膨らませることである。つまり、卒業生の学生時代の大学満足度が高くなければ、このような活動をボランティアで行うのは難しい。そのような意味でも、校友会が大学と連携して学生を支援する仕組みを作ることは、学生時代から大学に対する満足度を高め、ひいてはそれが将来の卒業生のこれらの活動に生きてくるといった良い循環に結びつくといえる。

## 6. 卒業生と校友会の関係

### 6.1 校友会とのつながり

校友会の会員資格は、正会員、準会員、名誉会員の3種類に分けられる。正会員は、大学の学位を取得した卒業生、準会員は、学位は授与されないがコースを修了した卒業生、名誉会員は、会員の推薦を受けて承認された者である。これらの校友会員は、自分の卒業年次 (Class)、支部 (Chapter) にそれぞれ属する。普段の活動は、卒業生の居住地の支部 (Chapter) を中心に行う。年1回行われる全学同窓会 (Reunion・Homecoming Day) やオンライン上でのクラスの近況報告 (Class Note) は、卒業年次 (Class) 単位で行われる。卒業生は自分の興味や関心により、片方もしくは両方の活動に参加することができる。年会費については、1校友会を除き、記述はなく、イベントごとに必要とされる会費が設定されていた。卒業生の校友会に対するボランティア活動としては、①クラスのボランティア、②支部のボランティア、③校友会のイベントボランティア、④校友会の役員が挙げられる (表5)。

表5：卒業生が校友会に対して行うボランティア活動内容

ボランティアの種類	活動内容
クラスのボランティア	同じクラスの卒業生を繋ぐ。「Class Note」や「Class Website」によりクラスの卒業生たちの近況情報を共有する。
支部のボランティア	居住地の卒業生を繋ぐ。
校友会のイベントボランティア	校友会が主催する様々なイベントを手伝う。
校友会の役員	校友会の役員として校友会の運営に携わる。

(出所) WCC加盟校の校友会ウェブサイトより筆者作成。

それではなぜ、校友会は、様々なボランティアの機会を提供しているのか。The Columbia College Alumni Association を例とすれば、ボランティアは校友会の使命を果たす上で、重要な役割と認識されており、校友会のアンバサダーとして機能していると説明している。卒業生のボランティアの知識と経験は非常に貴重であり、ボランティア活動の一つ一つが Columbia College のコミュニティを強化すると考えている (The Columbia College Alumni

Association)。つまり、大学に関連するボランティア活動を通して、卒業生は大学の動向を知り、新たな繋がりを構築し、卒業後も大学での経験を共有できていると筆者は考える。

## 6.2 卒業生への支援

他方で、校友会は、卒業生に対してどのような支援を行っているのだろうか。校友会による卒業生への支援の内容を表6にまとめた。

表6：校友会による卒業生への支援内容

分野	内容
キャリア支援	大学院への進学相談、卒業生同士のピアメンタリングサークル、オンラインプログラム、キャリアカウンセリング、職業紹介、キャリアプランニング支援、ワークショップなど
卒業生同士が繋がる手段の提供	オンラインダイレクトリー、SNS (Twitter, Facebook, LinkedIn 等)、クラスノート (クラス用ウェブサイト)、ボランティア機会の提供
生涯学習	授業料割引、授業聴講無料 (一定の条件あり)、オンラインプログラムの提供
卒業生表彰	様々な分野 (ビジネス、大学への貢献等) で活躍した卒業生の表彰
イベント	大学イベントの案内、全学同窓会の開催
トラベル	校友会が主催する旅行 (大学によっては教員によるレクチャー有)
雑誌	大学が発行する広報誌・メールマガジンの発行
購買	大学グッズの販売、レンタカー・宿泊・保険・本の割引サービス
施設貸出	ジム、プール、運動場、図書館、博物館、会議室、大ホール、ケータリング、教会 (結婚式割引) などの使用に対する割引・無料使用

(出所) WCC 加盟校の校友会ウェブサイトより筆者作成。

これらの校友会による卒業生への支援に関する特徴は、以下の3点にまとめられる。

第一に、キャリア支援が充実していることである。担当部署は、大学のキャリアセンターである。卒業生のキャリアプランニングに係る相談、卒業生や教員による女性のキャリアに関する講演、キャリアプランニングガイドの提供などキャリア全般にかかることから、職業紹介、履歴書や職務経歴書の書き方のワークショップと言った細部まで丁寧にフォローされている。

第二に、ボランティア・イベント・旅行など学生、教員、卒業生と繋がる機会が数多く提供されていることである。専業主婦や働く女性といった卒業生のライフコースや自分の選好・経済的要素にあわせて、多様な関わり方が選べるようになっている。

第三に、これらの卒業生支援は、インターネットを活用して行われていることである。校友会の手続きや大学グッズの購入といったことからキャリアプランニングに関する講義

なども全てインターネット上で提供されており、母校を離れた卒業生たちも、校友会のサービスを受けることができる。ソーシャル・ネットワーキング・サービスは著名なサービス（Twitter, Facebook, LinkedIn 等）に参加しており、大学の状況や校友会活動を随時知ることができる。卒業生の仕事探しやビジネス人脈の構築には、LinkedIn が活用されている。併せて独自のオンラインコミュニティを持っており、学生も参加可能な場合もある。

## 7. 考察

本稿では、3つのRQを設定し、米国の私立女子大学における校友会の特徴と役割を整理した。

### ・RQ1. 一般の大学と比較して私立女子大学の校友会にはどのような特徴があるのか

米国の私立女子大学における校友会の特徴は、次の2点にまとめられる。

第一に、校友会の基本的な使命は「大学の発展を支えること」「卒業生と大学をつなぐこと」「卒業生同士をつなぐこと」「卒業生の継続的な成長を支えること」である。「大学の発展を支えること」とは、「卒業生の興味や関心を大学に持っていてもらうこと」、「母校の伝統を守ること」、とも表現された。これらの使命を果たすため、校友会は、大学経営・学生・教員・卒業生に対する多面的な支援活動を行っている。その活動内容は、①寄付、②理事会への参画、③ボランティア、④奨学金、⑤キャリア支援、⑥イベント、⑦施設貸出、⑧生涯学習である。

第二に、校友会の構成は、学生を含む多様な属性の構成員から成り立っていることである。具体的には、学生の校友会グループや「GOLD」と呼ばれる卒業後10年以内の若い卒業生を校友会の運営に取り込むこと、活動に応じた様々な委員会を設置することによって、校友会の活性化を促している。

### ・RQ2. 校友会は大学にどのように関与し、貢献しているのか

校友会が大学に何かを提供するというよりも、卒業生自身がボランティア活動・イベントへの参加・学生との関わりなどの諸活動を通じて大学へ関与することで、卒業生の成長に繋がり、寄付・学生支援・学生募集をはじめとした大学全体に生きる仕組みを大学とともに構築している。大学側は、卒業生が人生で困難に出会った時に、多様な人生のロールモデルと繋がることのできる手段、キャリアプランニングをはじめとした大学の手厚い支援を受けられる環境、学生時代と変わらない資源（施設やサービス）を卒業生に提供している。

校友会が、母校に対しての満足度を在学中及び卒業後も高める活動に取り組むことによって、学生・卒業生を生涯にわたって支えるという女子大学としての母校の価値を高めている。その結果として、新しい学生を獲得するという大学に対して重要な役割を校友会は果たしている。



・RQ3. 卒業生に対して校友会はどのような役割を果たしているのか

卒業生は、校友会の運営や卒業生同士をつなぐことによって、校友会の活性化に努めている。校友会に参加した卒業生は、卒業生に対して校友会のアンバサダーとしての役割も果たしている。卒業生同士がつながっていれば、大学や校友会とのつながりが切れたとしても再構築できる可能性があるため、この役割は重要であるといえよう。

一方で、校友会は卒業生に対して生涯に渡り、多様な生き方や学び方を学ぶための機会を提供するという役割を果たしている。特に現代の女性は、家庭と仕事との両立、育児・介護の問題や労働におけるジェンダー格差など様々な葛藤を抱えている。その葛藤を乗り越えるためのつながりや考え方を、校友会が提供している。

3つのRQから、校友会が卒業生の後ろ盾となって、卒業生を生涯に渡って励まし、支え続けていることが明らかになった。校友会の大学に対する最も重要な役割は、学生と卒業生を生涯支えることによって、母校に付加価値をつけていることである。米国の私立女子大学における校友会は、卒業生の人生を支え、その卒業生が社会で活躍することによって、母校も発展するという「卒業生先行型」であるといえよう。この結果は、先行研究で米国の女子大学の卒業生による大学・教育経験に対する満足度、在籍率と卒業率が高い割合を示している要因の一つでもあると筆者は考える。また、米国における校友会の役割は「変動する社会における高等教育の課題への応答的な支援のあり方」(鳥居,2013: 143)の提供と先行研究では述べられていた。本稿においては、米国における女性のエンパワーメントという課題及び女子大学の使命に対して校友会は卒業生を支援することにより貢献していることが明らかになり、鳥居(2013)の主張を支えるものとなった。

## 8. おわりに

本稿において残された課題は、次の3点である。第一は、日本と米国の私立女子大学の歴史と校友会の発展過程を比較することによって、米国の私立女子大学と校友会は日本の女子大学のモデルとなりうるのかを検討する。第二は、米国の私立女子大学における校友会の役割をより明確にするため、女子大学側から校友会の役割を分析し、両者の関係を確認することが必要である。このことにより、筆者の仮説である女子大学にとって校友会が大学経営維持の鍵になるということを立証する。第三は、本稿における分析の結果、校友会と大学の様々な部署との連携が見られた。その点において大学の校友課(Office of Alumni Relations)がどのような役割を担っているのかを確認する必要がある。これによって、大学と校友会の連携状況を一層明らかにし、日本の大学と校友会との関係に新しい知見を得るためである。

参考文献

【日本語文献】

- 青木生子 (1995) 「女子大学の現代的意義」 日本女子大学女子教育研究所『女子大学論』ドメス出版、pp.10-25.
- 天野郁夫 (2000) 「大学の同窓会—歴史と展望」『IDE 現代の高等教育』419 巻、pp.5-11.
- 天野正子 (1986) 『女子高等教育の座標』垣内出版
- 安東由則「アメリカにおける女子大学のプロフィールと現状」『武庫川女子大学教育研究所研究レポート』第44号、pp.59-88.
- 飯野正子 (1997) 「校友会活動の日米比較」 日本私立大学連盟『大学時報』46 巻 253 号、pp.58-61.
- 江原昭博 (2009) 「アメリカにおける大学の同窓会:その成立過程と日本への示唆」『国立教育政策研究所紀要』138 号、pp.125-139.
- 江原昭博 (2010) 「アメリカの大学における卒業生を対象とする研究:Alumni Studies の歴史的変遷」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第1分冊、pp.155-168.
- 江原武一 (1994) 『大学のアメリカ・モデル—アメリカの経験と日本』 玉川大学出版部
- 加藤靖子 (2014) 「アメリカにおける女子大学研究の動向と課題」『東京大学大学院教育学研究科紀要』54 巻、pp.73-80.
- 喜多村和之 (1990) 「同窓会 (Alumni) の意義—アメリカの場合を中心に」 文部省高等教育局学生課『大学と学生』297 巻、pp.7-13.
- 坂本辰朗 (1999) 『アメリカの女性大学・危機の構造』 東進堂
- 清水畏三 (1987) 「アメリカの大学校友会—その母校愛と寄附」 日本私立大学連盟『大学時報』36 巻 192 号、pp.46-49.
- 鳥居朋子 (2013) 「同窓会活動における大学への戦略的支援—ミシガン大学同窓会の事例に注目して—」 広島大学高等教育研究開発センター『大学論集』第44集、pp.131-146.
- 朴木佳緒留 (2015) 「大学の男女共同参画の課題と展望」 大学評価学会『大学政策・経営における多様性と包摂性—ジェンダーからのアプローチ—』、pp.1-21.
- ホーキンス・ジョン・N 田中義郎訳 (2000) 「アメリカにおける同窓会」『IDE 現代の高等教育』419 巻、pp.18-23.
- マルガリータ・エステベス・アベ (2011) 「男女雇用均等の制度的要件の国際比較・日本の男女間格差はなぜ根強いのか」 労働政策研究・研修機構『日本労働研究雑誌』53 巻 10 号、pp.52-62.
- 三宅えり子 (2013) 「男女共同参画社会における女子高等教育の今日的課題・同志社女子大学のあゆみを事例として」 同志社女子大学現代社会学会『現代社会フォーラム』第9号、pp.16-38.
- 村田鈴子 (2001) 『アメリカ女子高等教育史: その成立と発展』 春風社

文部科学省 (2014a) 『平成 26 年版文部科学大臣所轄学校法人一覧』

山田礼子 (2008) 『アメリカの学生獲得戦略』 玉川大学出版部

山田礼子 (2010) 「共学にはない、女性だけのためのリーダー教育」『カレッジマネジメント』 160 号、pp.46-49.

M.J.ワース、J.W.アスプ II 著、山田礼子訳 (1997) 『大学開発の担い手—ディベロップメント・オフィサー』 玉川出版部

### 【英語文献】

Charles,W.H.,eds.,(1989),*Handbook for Alumni Administration*,American Council on Education.

John,A.F.,(2010),*Alumni Relations A Newcomer's Guide to Success*, COUNCIL FOR ADVANCEMENT AND SUPPORT OF EDUCATION.

John Pulley,(2014),*100 Years of Alumni Engagement*, COUNCIL FOR ADVANCEMENT AND SUPPORT OF EDUCATION.

Sailor, R. W.,(1930), "The American Alumni Council: A Historical Sketch of the Different Organizations Which Have Finally Combined to Form the Council," *The Journal of Higher Education*, Vol.1, No.6, pp.339-341.

Stover, W. S.,(1930), *Alumni Stimulation by the American College President*, Columbia University.

Tara,S.S.,Aaron,W.H., (2002),"The Role of the Alumni Association in Student Life," *New Directions for Student Services*, Vol.2002, Issue.100, pp.51-68.

### 【ウェブサイト】

厚生労働省雇用均等・児童家庭局 (2015) 『平成 26 年版働く女性の実情』、pp.2-3.

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/josei-jitsujo/14.html> (最終アクセス : 2015 年 11 月 27 日)

一般社団法人国立大学協会 (2015) 「国立大学における男女共同参画推進の実施に関する第 11 回追跡調査報告書」

[http://www.janu.jp/active/txt6-2/201502houkoku\\_01.pdf](http://www.janu.jp/active/txt6-2/201502houkoku_01.pdf) (最終アクセス : 2015 年 12 月 24 日)

社団法人日本私立大学連盟 (2012) 「平成 23 年度男女共同参画推進に関するシンポジウム」

[http://www.shidairen.or.jp/download/?file\\_id=1270&ext=.pdf](http://www.shidairen.or.jp/download/?file_id=1270&ext=.pdf) (最終アクセス : 2015 年 12 月 24 日)

内閣府男女共同参画局 (2009) 「資料 女子差別撤廃委員会の最終見解 (仮訳)」

[http://www.gender.go.jp/whitepaper/h22/zentai/html/shisaku/ss\\_shiryo\\_2.html](http://www.gender.go.jp/whitepaper/h22/zentai/html/shisaku/ss_shiryo_2.html) (最終アクセス : 2015 年 11 月 27 日)

内閣府男女共同参画局 (2015) 『男女共同参画白書 平成 27 年版』

[http://www.gender.go.jp/about\\_danjo/whitepaper/h27/gaiyou/index.html](http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h27/gaiyou/index.html) (最終アクセス : 2015 年 11 月 27 日)

文部科学省 (2014b) 『文部科学統計要覧平成 26 年版』

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/002/002b/1349641.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/002/002b/1349641.htm) (最終アクセス : 2015 年 11 月 27 日)

早稲田大学男女共同参画推進室 「11.本学役職者等の男女比率 (2015 年度) グラフ」

[http://www.waseda.jp/sankaku/figure/pdf/11\\_managers.pdf](http://www.waseda.jp/sankaku/figure/pdf/11_managers.pdf) (最終アクセス : 2015 年 12 月 24 日)

Brenau University Alumni Association bylaws “Section 4. Duties.”

<http://www.brenau.edu/wp-content/uploads/2013/07/Bylaws-of-the-Brenau-Alumni-Association.pdf> (最終アクセス : 2015 年 11 月 25 日)

Human Development Report, (2014), “Gender Inequality Index,”

<http://hdr.undp.org/en/content/gender-inequality-index-gii> (最終アクセス : 2015 年 11 月 23 日)

Shaw, W.B.,(1922), “A New Power in University Affairs,”. *Scribner’s Magazine*, LXXI:pp.677-684.

<https://www.unz.org/Public/Scribners-1922jun-00677> (最終アクセス : 2015 年 11 月 27 日)

The Chatham University Alumni Association, “The Student Alumni Association at The

Chatham University,” <http://www.chatham.edu/alumni/alumnibenefits/saa.cfm> (最終アクセス : 2015 年 11 月 25 日)

The Columbia College Alumni Association, “Alumni Volunteer Roles & Responsibilities,”

<http://www.columbiacollegealumni.org/GetInvolved/VolunteerRolesResponsibilities.aspx> (最終アクセス : 2015 年 11 月 27 日)

*The Guardian*, Associated Press in New York, “Women’s college Barnard updates policy to admit transgender women,” June 4, 2015,

<http://www.theguardian.com/society/2015/jun/04/barnard-admits-transgender-women-college> (最終アクセス : 2015 年 11 月 27 日)

Women’s College Coalition,(2012), “What Matters in College After College,”

<http://sbc.edu/sites/default/files/u1/Admissions%20WCC-H~D%202008.pdf> (最終アクセス : 2015 年 11 月 27 日)

Women’s College Coalition,(2014), “The Truth About Women’s Colleges,”

[http://womenscolleges.org/sites/default/files/report/files/main/wcc01\\_trendsreport\\_final\\_interactive.pdf](http://womenscolleges.org/sites/default/files/report/files/main/wcc01_trendsreport_final_interactive.pdf) (最終アクセス : 2015 年 11 月 27 日)



## 参考資料

以下に、本稿で分析対象とした WCC に加盟している大学の校友会の一覧を上げる。

## WCC 加盟大学における校友会の一覧表

No.	大学名	州名	校友会名
1	Agnes Scott College	ジョージア州	The Agnes Scott Alumnae Association
2	Alverno College	ウィスコンシン州	Alverno Alumnae Association
3	Barnard College	ニューヨーク州	The Alumnae Association of Barnard College
4	Bay Path College	マサチューセッツ州	Alumni Association Council
5	Brenau University	ジョージア州	The Brenau University Alumni Association
6	Bryn Mawr College	ペンシルベニア州	The Bryn Mawr Alumnae Association
7	Carlow University	ペンシルベニア州	The Carlow University Alumni Association
8	Cedar Crest College	ペンシルベニア州	Alumnae Association of Cedar Crest College
9	Chatham University	ペンシルベニア州	The Chatham University Alumni Association
10	College of Saint Benedict	ミネソタ州	Saint Ben's Alumnae Association
11	College of Saint Elizabeth	ニュージャージー州	The CSE Alumnae/i Association
12	College of Saint Mary	ネブラスカ州	The CSM Alumnae Association
13	Columbia College	サウスカロライナ州	The Columbia College Alumni Association
14	Converse College	サウスカロライナ州	The Converse College Alumni Association
15	Cottey College	ミズーリ州	The Cottey College Alumnae Association
16	Hollins University	バージニア州	The Hollins University Alumnae Association
17	Judson College	アラバマ州	The Judson College Alumnae Association
18	Meredith College	ノースカロライナ州	The Meredith College Alumnae Association
19	Midway University	ケンタッキー州	The Midway University Alumni Association
20	Mills College	カリフォルニア州	The Alumnae Association of Mills College
21	Moore College of Art and Design	ペンシルベニア州	The Alumni Association
22	Mount Holyoke College	マサチューセッツ州	The Alumnae Association of Mount Holyoke College
23	Mount Saint Mary College	ニューヨーク州	The Mount Saint Mary College Alumni Association
24	Notre Dame of Maryland University	メリーランド州	The Alumnae and Alumni Association
25	Saint Mary-of-the-Woods College	インディアナ州	The SMWC National Alumni Association
26	Saint Mary's College	インディアナ州	The Saint Mary's College Alumnae Association
27	Salem College	ノースカロライナ州	The Salem College Alumnae Association
28	Scripps College	カリフォルニア州	The Alumnae Association
29	Smith College	マサチューセッツ州	Alumnae Association of Smith College
30	Spelman College	ジョージア州	The National Alumnae Association of Spelman College
31	Stephens College	ミズーリ州	The Stephens College Alumnae Associatio
32	Sweet Briar College	バージニア州	The Sweet Briar College Alumnae Alliance
33	University of Saint Joseph	コネチカット州	The University of Saint Joseph Alumni Association
34	Wellesley College	マサチューセッツ州	The Wellesley College Alumnae Association
35	Wesleyan College	ジョージア州	Wesleyan College Alumnae Association

(出所) WCC 加盟校校友会ウェブサイトより筆者作成。